

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
66	川崎市立南原小学校	平井 育子

学校教育目標	今年度の重点目標
人間性豊かな 南原の子 ・よく考える子【知】 ・心豊かな子【徳】 ・元気な子【体】 地域とともに歩む開かれた学校づくり	みんなで創る みんなの笑顔 南原小学校 ・学び合いを大切にし、一人一人に応じた分かる楽しい授業の構築 ・豊かな心と創造性を育む教育活動の構築 ・心も体も健やかな子を育む教育活動の展開 ・地域とともに歩む開かれた学校づくり

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
よく考える子	1	<p>学び合いを大切にし、一人一人に応じた分かる楽しい授業の構築</p> <p>■わかる喜びやできる楽しさを味わえる授業を心掛け、未来に向かう児童の資質能力を育成する。 ■既習や実感を基に児童同士が互いの考えを伝え合うことで、思考力や判断力、表現力を育む。</p>	<p>・学習のねらいや、思考力・判断力・表現力を高めるための手立てを常に明確にして授業に取り組む。 ・一人一人の学習の達成状況に応じた指導方法の工夫を試み、基礎・基本の定着に取り組む。 ・ICTを効果的に活用し、基礎的な情報スキルを培うと共に、話し合い、学び合いのツールとして活かしていく。 ・地域の人材や学習材を活用し、自らの体験を活かす学習活動の充実を図る。</p>	<p>・校内研究で国語科に焦点をあてて、言語力の育成と、言葉を通して児童同士の心が通い合うことを意識し、「協働的な学び」の土台づくりを進めてきた。その結果、一斉教授型の授業スタイルから脱却し、随時ペア学習やグループ学習などを取り入れるなど児童が協働して学ぶスタイルへと変容してきた。今後は児童自身が課題意識や「問い」を持ち、自らが自己調整しながら学びに向かえるよう一層の授業改善を図る必要がある。 ・GIGA端末の日常的な持ち帰りをを行い、児童が自分の必要感に応じて利用できる環境が整った。さらに「個別最適な学び」の充実を図るために、教師の一人一人に対して学習の進捗状況のみならず一人一人の興味関心に目を向けることで資質能力の育成をめざし、個に応じた支援方法の工夫を検討していきたい。 ・アフターコロナとなり、地域の学習材を意識しながら進めてきたが、さらに充実させていく必要がある。</p>	<p>・「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の3つの柱のうち、特に「個別最適な学び・協働的な学びと授業改善」については、学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けていくことが必要であると考える。そのために、学校全体のカリキュラムマネジメントをして他教科と関連付けながら、一人一人の児童が授業での自分で学びを振り返り、自己調整しながら進められるよう改善する。また、児童の新たな「問い」や「やってみよう」という意欲を大切にしながら教育活動を展開するよう意識していく。 ・GIGA端末の活用では、情報の共有・共同編集等については、現段階でも大いに効果をあげているが、地域の方や専門家へ発信することや、協働しながら自己有用感を高められるようにすることを目指し、授業展開や学習の過程をさらに工夫する。</p>
	2	<p>豊かな心と創造性を育む教育活動の構築</p> <p>■児童会活動や学級活動等の中で、児童を主体とした活動を充実させ、よりより集団生活のための自主的・実践的態度を養う。 ■人権尊重教育を基盤とし、異学年交流や道徳教育の充実を通して、心豊かで思いやりのある子を育む。 ■キャリア在り方生き方教育の実践を通し、自己の生き方を振り返り、積み上げていく力を育む。 ■互いに認め合い、支え合う学級づくりを行う。</p>	<p>・代表委員会や学級会、係活動を通して、自主・自立、共生・協働の精神を養う。 ・心の交流を大切にした児童同士のかかわりを工夫して実施すると共に、学習活動を通して他者と心を通わせ、違いを受け止め、つながりを大切にする児童を育む。 ・研修を通して、教職員による児童理解の向上を図り、学級の中で児童の居場所づくりに努める。</p>	<p>・児童へのアンケートによると「学校での教育が自分の成長につながっていると思いますか」という質問項目に100%の児童が肯定的な回答をしていた。登校への意義を児童が感じており、望ましい結果であったと言える。しかしながら児童会活動や学級会活動など児童の想いを大切にした学校となるよう工夫の余地がある。また児童間での温かい言葉のやりとりを活性化できるような環境づくりを推進していきたい。 ・相談体制については、保護者の90%以上が肯定的な回答であったが、児童の約2割は「相談できない」との回答結果であったことを重く受け止め、児童に対する「SOSの出し方受け止め方教育」だけではなく、教職員の受け止められる感度を高くするなど人的環境づくりに努める必要がある。</p>	<p>・「子どもたちが創る『自分たちの学校』」であることを児童に強く意識させ、活動を支えていくことにする。特に次年度は再来年度「創立40周年」であることから、その準備の年となる。学校の歴史を振り返り、一人一人が未来へ向かう気持ちをもたせる絶好の機会だと捉えている。児童会活動・学級活動の充実を図り、自主的・実践的な態度を養うと共に、全校の一員であるという所属感をもたせていく。 ・実感を伴わせることができる体験活動や読書活動・音楽活動などは児童の情操を育成するために有効な教育活動である。やさしさと思いやりをもったつながりを創るためにも、次年度は力を入れていきたい。 ・人権尊重教育の推進、とりわけ教職員が受容的な態度で児童に接し、児童の発想を大切にすることができるよう研修を積んでいく。</p>

元 気 な 子	<p>心も体も健やかな子を育む教育活動の構築</p> <p>■ 体育学習の指導方法の工夫やキラキラタイムによる体力づくりの推進により、運動を好きな子を育て、外で元気に遊ぶ子を育てる。</p> <p>■ 健康教育・食育の推進、防災教育や情報モラル教育の充実を図り、健康を守り安全に生活できる子を育てる。</p>	<p>・運動の特性にふれる楽しさ、工夫して活動する楽しさにふれる体育学習の工夫やキラキラタイムの活動の工夫を図ることによって、外で元気に運動したり遊んだりする子が増えることをめざす。</p> <p>・健康保持のための正しい知識と行動の周知を図る。</p> <p>・様々な状況を想定した避難訓練の実施や情報モラルの指導を通して、児童の危機回避能力の育成を図る。</p>	<p>・運動委員会が中心となって学級や学年で体を動かすキラキラタイムを実施するなどして身体を動かす機会を設けてきた。児童アンケートからは、運動に対する意識は二極化が見られている。コーディネーション運動等の外部講師などを招聘しながら多様な運動経験を積むことができるように工夫してきたが、さらに児童が自然に外遊びができるような仕掛けを工夫し、活性化していく必要がある。</p> <p>・養護教諭による保健指導や、栄養教諭による食育指導を行い、健康についての意識を高めるための教育活動を充実させることができた。今年度は新規に長期休みでのメディアコントロールへの取組を始めることができた。</p> <p>・交通安全・非行防止・薬物乱用予防についても警察署等と連携しながら直接児童に考えさせる機会をもつことができた。継続して進めていきたい。</p>	<p>・児童主体の児童会活動を一層充実させ、次年度リニューアルされるキラキラタイムを全校をあげて無理なく取り組めるようにする。異学年交流等も活用しながら、進んで身体を動かす機会をもつことにする。</p> <p>・4年ぶりに開催した学校保健委員会をさらに発展させ、学校公開日などを大いに活用しながら家庭や地域を巻き込み、児童の健康教育・食育推進・情報モラル教育の推進に努めていく。また今年度外部機関等に依頼して実施した様々な出前授業については継続して取り組むことができるよう引き継いでいく。</p> <p>・防災教育については、非常持ち出し袋などを持たせるとともに、避難訓練・不審者対応訓練など訓練後の児童の振り返りに重点を置きながら、児童が自分で判断して行動できるよう進めていく。</p>
地 域 と と も に 歩 む 学 校	<p>地域とともに歩む開かれた学校づくり</p> <p>■ 地域の人々との連携や相互理解を大切にした学校づくりを推進する。</p> <p>■ 学校情報の積極的な発信をしていく。</p>	<p>・コロナ禍により中断していた地域や保護者との繋がりを再開していく。</p> <p>・学校HPによる情報発信により学校教育活動に対する理解を保護者や地域の方々に深めていただくとともに、様々な機会を捉えて保護者アンケートを実施することにより意向や受け止め方の把握に努める。</p>	<p>・保護者の90%以上が「学校の様子が変わる」と肯定的な回答をしていた。またアンケート等でも保護者の皆様から学校運営に対し前向きなご意見をいただくことができた。また「相談できる体制が整っている」という回答にも95%以上の保護者の皆様からの肯定的な回答があった。保護者連携については、引き続き工夫しながら重点的に考えていきたい。</p> <p>・地域連携については、老人会との交流・町会長さんなどからの学習協力を復活することができた。地域の花壇などに花苗を植える等の活動し、地域との繋がりをもちつことができた。次年度は更に活性化しコミュニティ・スクールとしての一歩を踏み出すとともに周年行事の準備段階に入る。</p>	<p>・次年度は創立40周年の記念事業の準備の年となる。児童主体に生活科・総合的な学習の時間及び児童会活動を中心に「南原ブランド」の確立を図る。それらを保護者や地域に発信できるようにしていくことにする。そのために学習の足跡を残すとともに、今後10年間の指針となるよう副読本または地域素材に関する共有フォルダを作成する。</p> <p>・コミュニティ・スクールの1年目として、様々な機会を活用して学校とともに地域の方々に学校を知っていただくことからスタートし、やがては協働して学校を創っていくことができるよう、基盤づくりをしていく。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>・GIGA端末を活用した授業については、今年度は昨年度よりも大きく進歩している。次の時代を見据えた教育となるように努力していることが見える。子どもたち同士が関わり合い、話し合っている授業風景に感心した。今後もそれぞれの個性や多様性を大切にしていってほしい。</p> <p>・南原小学校の良さは、子どもたちが素直であること・優しいことである。100%の児童が「学校の教育活動が自分のためになっている」と考えていることが素晴らしい。すぐにまとまることができる集団力をもつ小規模校の良さを生かしつつ、一人一人の心の揺らぎなども的確に見取って成長につなげていくことを期待したい。引き続き、子どもが自分一人で完結したり、画面越しの友情だけになったりすることがないよう、学校では実感を伴う関わりを大切にしながら進めていくとよい。</p> <p>・体力づくりについての課題意識については、日常的な遊びを通して様々な部位を鍛え、無理なく進めていってほしい。</p>	<p>・今年度は、アフターコロナとなり、給食時の会食・全校での参集型の集会・校外学習など4年ぶりに行うことができた。かわさきGIGAスクール構想もステップ3となり、全校児童の日常的な持ち帰りもできるようになった。教育活動の様相はこの1年間で、時代に即応する素地ができてきたと捉えている。更に一人一人の児童の様子が見える小規模校の良さを生かしつつ、それぞれの資質能力の育成と学びに向かう力を育てていくことを目指したい。教職員は温かく的確な支援ができるよう一層研究研鑽を積んでいく必要があると考えている。</p> <p>・次年度は、異学年での交流活動(たてわり班)の復活による児童の活躍の場の保障をしていくことにしている。併せて創立40周年にむけ、児童の主体的な活動を促し、児童会活動の活性化を図り、教育活動全般を通して、全校での「南原ブランド」の確立を目指す。そのことは「市制100周年・わがまちかわさき」における「自主・自立」「共生・協働」の理念ともつながるものである。そして保護者や地域を巻き込みながら、未来を切り拓く子どもたちの育成をめざして、学校教育活動の活性化を図りたいと考えている。</p>